

記事内容

- ☆平和行動in沖縄
- ☆メンタルヘルスセミナー開催/協会けんぽ埼玉県大会
- ☆青年委員会・連合千葉青年委員会との交流/埼玉労福協「第15次東南アジア視察」
- ☆青年委員会ユースラリーお知らせ/女性のためのSTEP UPセミナーお知らせ/組合役員教育プログラムのお知らせ
- ☆育児休業給付金の充実について/8月の行動日程
- ☆あけぼのビル

「願う」平和から、「叶える」平和へ つながろうNIPPON!

2014平和行動in沖縄

連合の平和行動のスタートを切る沖縄集会は、毎年6月23日の「慰霊の日」から始まり、連合埼玉からは16名が、そして、全国から1,000名を超える仲間が集まった。

2日目のピースフィールドワークで沖縄本島内の戦跡、糸数アブチラガマ、平和祈念公園(平和の礎)、ひめゆりの塔、旧海軍司令部壕などを巡り、見識を深めるとともに、献花と千羽鶴を奉納し、亡くなられた多くの方々の慰霊をおこなった。

あらゆる戦争の実相は悲惨であるが、とくに住民を根こそぎ動員した沖縄戦は、捨て石作戦や集団自決という言葉からも、とりわけ悲しくむなしい。さらに、敗戦と同時に終わるはずの苦痛が、沖縄では戦後69年が過ぎた今でも、基地問題として県民を苦しめ続けている。この小さな島に国内の74%の米軍基地が密集するという異常さを感じざるを得なかった。そして、普天間には、安全性の確認もそこそこにオスプレイが配備され、昼夜、飛行訓練をおこなっている。沖縄の方々の負担の上に成り立っている現状を、改めて痛感させられた。

日程

1日目 (6/23) ■2014平和オキナワ集会

と き 15:00~17:00
ところ 那覇市民会館大ホール
テーマ 第1部 基調講演

「日米地位協定の抜本的見直しおよび
在日米軍基地の整理縮小について」
講師:柳沢 協二氏

第2部 平和式典

2日目
(6/24)

■ピース・フィールドワーク(連合群馬と合同行動)

内 容 糸数アブチラガマ→平和祈念公園→ひめゆりの塔
・資料館→旧海軍司令部壕→集会会場


■「在日米軍基地の整理・縮小」と「日米地位協定の抜本見直し」を求める行動

内 容 集会(県庁前県民広場)
デモ(県庁前→国際通り→牧志公園)

参加者氏名


- 齊藤 舞 (UAゼンセン埼玉県支部)
内田 智也 (電機連合/岩崎電気労働組合埼玉支部)
小林 宏樹 (JAM埼玉/新電元工業労働組合)
篠崎 一政 (情報労連/NTT労働組合北関東総支部)
関根 雅博 (情報労連/新和ユニオン)
上野 英男 (運輸労連/太平洋陸送労働組合)
古賀 初代 (印刷労連関東北部地方協議会
/リーブルテック労働組合)
渡辺 裕次 (運輸労連/全日通労働組合埼玉支部)
福田 博之 (さいたま市地域協議会/JR東労働組合浦和支部)
神永 隆 (川口・戸田・蕨地域協議会
/NTT労働組合北関東総支部川口分会)
渡部 正春 (県央地域協議会/ヤマト労働組合)
森澤 聡 (熊谷・深谷・寄居地域協議会/八木橋労働組合)
千島 和広 (秩父地域協議会/埼玉富士労働組合)
田口 文男 (執行委員会/NTT労働組合北関東総支部)
矢口 昌広 (青年委員会/JR東労働組合大宮地本)
小穴真一郎 (連合埼玉副事務局長)

- ①平和行動に参加したのは何回目ですか？
- ②何を目的に参加しましたか？
- ③現地に着いて最初に感じたことは何ですか？
- ④今回の平和行動で一番印象に残っていること・場所はありますか？
- ⑤感想




齊藤 舞

- ①初めて
- ②自分が経験したことのない戦争について学び平和の尊さについて認識を深めるため
- ③自分の想像とは異なり、それを超えるものであると感じました。
- ④糸数アブチラガマ
- ⑤糸数アブチラガマでのガイドさんの「ここでは人は死んでいったのではなく、朽ちていったのです」という言葉がとても衝撃的で、人が人として生きられない、人として死ぬこともできない、自分も戦争を経験したくないし、誰にも経験させてはいけないものだと思いました。




内田 智也

- ①初めて
- ②平和行動を通じて戦争の悲惨さを学ぶため
- ③所狭しと建ち並ぶ建物と広大な敷地の那覇基地の関係の異様さ
- ④糸数アブチラガマ
- ⑤ピースフィールドワークで訪れた戦跡は、どれも目を覆いたくなるものばかりでした。こんな悲惨な出来事がこの地で起こったのかと思うと悲しくなりました。戦争は二度と起こしてはならないと改めて決意しました。



小林 宏樹

- ①初めて
- ②戦争の悲惨さ平和の尊さを認識する為
- ③高温多湿。戦争末期の苛酷な自然環境を実感。
- ④糸数アブチラガマ
- ⑤衝撃を受けた戦跡、糸数アブチラガマ。我々の入壕は一時間程度でしたが、実際はその環境下で何ヶ月も生活していたと聞いた瞬間、筆舌に尽くし難い恐怖に襲われました。一体あの沖縄戦は何だったのか？怒りと共に『恒久平和』を想った時、平和とは祈るのみではなく、実相を記録に残し、学習し、伝承する。そのような行動が不可避であることに気付かされました。



篠崎 一政


- ①初めて
- ②戦後から現在にかけての沖縄を知るため
- ③意外と都会だと感じたこと
- ④糸数アブチラガマ
- ⑤戦跡を巡り、69年前の沖縄の人達は「鉄の雨」「鉄の暴風」と言われた地上戦を体験し、その犠牲になったことを改めて痛感しました。現在でも米軍基地等の問題も残り、過去から現在まで戦争に翻弄されている沖縄の実情を目の当たりにした平和行動でした。



ひめゆりの塔




折り鶴の献納




関根 雅博

- ①2回目
- ②戦争の記憶を風化させないよう、職場や組織に広めるため
- ③戦争があったとは思えないほど、きれいな町
- ④糸数アブチラガマ
- ⑤語り部の方が年々、少なくなっており、戦争体験の話が生の声でなく、ビデオで流されていたことに大きなショックを受け、私たちが風化を止めなければならないという強い使命感を感じました。糸数アブチラガマは、自決した跡も残されており、とても心が痛みました。このような悲惨な戦争が二度と起こらないよう訴え、活動していきたいと強く思いました。



上野 英男

- ①初めて
- ②戦没者の慰霊のため
- ③人が多く観光の町
- ④糸数アブチラガマ
- ⑤69年前の沖縄戦で糸数アブチラガマ・真っ暗な鍾乳洞の悲惨な真実が、そのまま残されていることや、沖縄県平和祈念資料館での酷い写真・映像・遺品を見ると戦争は悲劇しか残らないと、心が痛みました。平和行動は、戦争の悲惨さに触れて二度と戦争を起こさないためと、次世代に伝えて行くことが、大切だと思いました。



古賀 初代

- ①初めて
- ②沖縄の現状と平和について知るため
- ③平和行動に参加するという緊張感
- ④糸数アブチラガマ
- ⑤今回一番感じたこと「沖縄では今も戦争は終わっていない」。皆で折った千羽鶴を埼玉の塔に献納しながら、ただただ平和を祈り、追悼の意を捧げる気持ちでした。そして私たちが平和行動で見た物、感じたことを、皆に、そして後世へと伝えていかなければならないと強く感じました。



参加者のみなさん



渡辺 裕次

- ①4回目
- ②他の平和行動とは違う平和行動であるから
- ③戦争によって何も伝えるものはない
- ④糸数アブチラガマ
- ⑤戦争末期、本土決戦を前に勝つ見込みのない戦いに多くの人命を失われた。糸数アブチラガマの中では、現実とは思えないことが現実として69年前に起こっていた。戦争によって命を失い、人が傷つき、無残な現実があり、今の平和があることを忘れてはならない。



神永 隆

- ①5回目(うち連合では4回目)
- ②平和を希求するものとして学習の必要性
- ③本土との違い
- ④糸数アブチラガマ
- ⑤沖縄戦がいかに悲惨で残酷だったか、「地元住民」の犠牲がいかに膨大な数に上ったのかを改めて学びました。今回の沖縄平和行動でいっそう平和の重要性を認識しました。この国が戦争に向かってしまうことが無いよう改めて職場、組織の中からの声を広めていきたいと考えます。



渡部 正春

- ①初めて
- ②沖縄の過去と現状を知るため
- ③天気予報通り梅雨空で蒸し暑い
- ④ピースフィールドワーク
- ⑤平和オキナワ集会から始まり、戦跡を自分の目で見たことで、沖縄に対するイメージが一変しました。69年の歳月が過ぎた今日でも、多くの米軍基地があることで、日々苦しめられている沖縄の方々の戦争は終わっていないのだと思いました。戦争の悲惨さを伝え、世界の平和を実現するため、平和行動を継続していかなければならないと感じます。



旧海軍司令部壕内の「指令官室」



デモ行進に出発!



田口 文男

- ①3回目
- ②当時の沖縄でどんな事が起きたのか、その悲惨な事実を知るため
- ③69年前の島民の恐怖
- ④糸数アブチラガマ
- ⑤太陽の光も届かぬ暗闇のアブチラガマの中は、米軍の攻撃から逃れた住民、傷ついた兵士とひめゆり学徒隊で埋め尽くされ、想像を絶する光景が繰り返されていたとの説明を聴きました。私たちは、この事実を忘れてはいけません。平和憲法を守らずにして犠牲者の方々に何と言ってお詫びし、ご冥府を祈れるのかと言うことを。



福田 博之

- ①2回目
- ②沖縄の米軍基地の現状と平和な社会創造に向けて労働組合としての役割と任務について追体験を通じて学ぶため
- ③米軍基地の多さ、日本に返還されても住民の負担は何も変わっていないと思った
- ④糸数アブチラガマ
- ⑤戦争から69年が経過した沖縄の地で当時の追体験として、糸数壕へ入った。真っ暗な壕の中で、負傷した兵士の救護、診療にどのような思いで二十歳前の乙女が「お国のため」とは言い、任務を遂行していたのかと思うと想像に絶する思いと尊い命を失った現実に胸が痛む思いがした。未来の子どもたちのためにも二度と戦争は起こしてはいけないと改めて思った。



森澤 聡

- ①初めて
- ②戦争と平和を考えるため
- ③参加人数の多さ
- ④糸数アブチラガマ
- ⑤現場や資料、証言は非常にショッキングなものでありましたが、私たちはもう一度、戦争という過去の過ちの中から恒久の平和を願う気持ちを再確認すべきであると痛感しました。また基地問題では、今もなお、沖縄は過度な負担を強いられていると言わざるを得ない現状があります。私たちが今後の日本の平和を実現していくために、沖縄が体験した歴史や現状をしっかりと把握しておくべきだと考えます。



千島 和広

- ①初めて
- ②ピースフィールドワーク
- ③経験したことのない蒸し暑さ
- ④ひめゆりの塔
- ⑤ピースフィールドワークでは実際に壕の中の焦げ跡を目の当たりにして事実として認識し、その恐ろしさ、悲惨さを体験し、同時に平和の尊さを学びました。今後、平和を祈るだけでなく、ひとりひとりが平和について考え行動して行くことが今の平和を維持していくには大事だと思いました。



矢口 昌広

- ①初めて
- ②6.23の慰霊の日の沖縄を体感すること
- ③気候の違い。湿度も90%を越えていたため、非常に蒸し暑かった。
- ④集会に参加して、全国各地から沖縄に結集していることに感銘を受けた。
- ⑤沖縄平和行動に参加をして改めて、戦争のない平和で明るい社会を作らなくてはならないと強く感じました。この研修に参加して、改めて戦争の悲惨さを痛感しました。我々に課せられた使命は、いかにこの体験を青年労働者に促すかだと思います。

メンタルヘルス問題とハラスメント対策

「メンタルヘルス研修会(応用編)」開催

7月16日(水)、あけぼのビルにおいてメンタルヘルス研修会(応用編)として、「様々なハラスメント」をテーマに、構成組織の組合役員と各企業の人事や総務担当者10名の参加者のもと開催した。

冒頭、労働政策委員長の近藤副会長より「近年、厳しい経営環境から企業においては様々な施策が早く展開され、労働者の心理不安などによるメンタル疾患が増えている。本人はもとより、企業のリスクにもなり見逃せない問題である。今回は、昨年の基礎編に続き応用編ということで、“ハラスメントについて”をテーマに研修会を開催する。上司・部下、また、仲間同士の信頼関係やコミュニケーションの低下など重要な部分であることから、本日の研修をとおり労使で課題を共有して、取り組みの参考にしてほしい」との挨拶がされた。

研修会では、オフィス・プリズム代表の涌井美和子氏を講師に招き、「メンタルヘルス問題とハラスメント対策」をテーマに、メンタルヘルスに関する最近の傾向、メンタルヘルス問題、ハラスメント問題など講師の方が経験した事例を挙げながら研修が進められた。午後の講義では、参加者がグループに分かれ、事例に応じた対応方法をロールプレイ、ディスカッション方式にておこなった。

参加者からは、「最新のデータや情報など興味深い内容だった」、「メンタルヘルスやハラスメントは社内内の問題と思っていたが、その枠に限らず社会的な問題も深く関わっていることを知り視野が広がった」、「少人数の研修だったので、もう少し意見交換の時間が欲しかった」などの声をいただいた。

次回は9月25日(木)にメンタルヘルス研修会(初級編)を開催する予定。



挨拶をする近藤副会長



グループディスカッション



研修会の様子

安心社会の実現に保険制度の維持・発展を

全国健康保険協会埼玉支部(協会けんぽ埼玉県)大会が開催される

6月26日(木)大宮ソニック小ホールにて、協会けんぽ埼玉県大会(共催:埼玉県社会保険委員会連合会)が開催され、来賓として小林会長が出席し、大会参加者として連合埼玉から16名が参加した。また、各団体からの参加者もあわせ、全体では325名の参加のもとおこなわれた。

冒頭、主催者を代表して埼玉県社会保険委員会連合会江原会長より、協会けんぽの置かれた状況や大会を開催する意義について挨拶がなされた。また、働く仲間の代表として小林会長より、「国民皆保険制度の一役を担い、日本最大の被保険者である協会けんぽが持つ役割は、重要である。多くの勤労者も加入していることから、勤労者が安心できる生活のための制度として、本制度の堅持・発展をめざさなければならない」と挨拶がされた。

大会の中では、「被用者保険のあり方について」と題して講演がおこなわれ、健康増進から見た保険事業の重要性について(講師:萱場一則 埼玉県立大学副学長)、また、協会けんぽの現状と課題について(講師:柴田潤一郎 全国健康保険協会埼玉支部支部長)と、現在、協会けんぽが置かれている状況と今後の方向性が示された。

最後に、下記の2項目の決議が採択された。協会けんぽでは参加者の声を集約し、秋に予定の協会けんぽ全国大会につなげて、関係各所の声を国や政府に強く訴えていく予定である。

決議

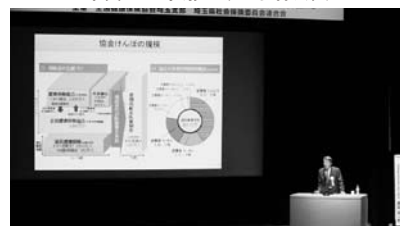
- 一、全国健康保険協会に対する国庫補助金の補助率を健康保険法が定める上限である20%(現在16.4%)に引き上げること。
- 一、公費負担の拡充をはじめ、高齢者医療制度を抜本的に見直すこと。



会場には参加者が多く集った



来賓として挨拶をする小林会長



協会けんぽの厳しい状況が説明される

若年層の意識の変革をどのように求めていくのか?

～連合千葉青年委員会との意見交換会を開催～

6月27日(金)、千葉県野田市のキッコーマン労働会館およびキッコーマン食品(株)野田工場にて、第6回幹事会ならびに連合千葉青年委員会との意見交換会を開催した。開催場所を提供頂いた、キッコーマン労働組合の芝崎中央執行委員長より、「単組内では様々な世代の人がいて世代間の差はあると思うが、組合活動をおこなっていないと出会えない人たちもいる。青年委員会と同世代として交流をして欲しい」と挨拶を頂くとともに、先日実施された野田市議選で2名の組織内候補者が当選されたことにも触れられ、「労働組合と政治との係わりについて、日本の労働組合は企業内労組で企業には強い。しかし、企業だけではどうにもならない事柄もあり、地域から議員を出して行政に声を届けることが必要である。そうした思いが、連綿と受け継がれてきた結果と考えている」と説明頂いた。

午後は、連合千葉青年委員会と合同で、キッコーマン食品(株)野田工場の見学ならびに、意見交換会をおこなった。埼玉・千葉それぞれの青年委員会の年間活動について、両青年委員長より説明があり、人の集まるイベント開催の内容や募集方法等について意見を交えた。更に、若年層の政治への参画や政治に対する意識低下への対応について議論をおこなった。また、意見交換会の中で、青年委員会の意義について論議がおこなわれ、話が尽きることなく終了時間を迎えた。最後に、県域を越えた青年委員会の交流について、来年も開催しようと約束し、連合埼玉青年委員会と連合千葉青年委員会との意見交換会を終了した。

青年委員会・事務局長 篠崎一政(情報労連)



キッコーマン労働会館にて、柴崎委員長とともに



皇室献上しようゆをつくる、御用蔵前で



意見交換会、活発な議論がなされる

経済発展に対して、労働組合・労働者福祉はこれから

埼玉労福協「第15次東南アジア労働福祉視察団」

埼玉労福協主催の第15次東南アジア労働福祉視察が、7月8日から12日にかけてミャンマーでおこなわれた。連合埼玉からは、田口執行委員と牧野執行委員の2名が参加し、総勢13名での視察団となった。

ミャンマーは、1989年、当時の軍事政権により「ビルマ」から「ミャンマー」と国名を変更、ビルマ時代の首都ヤンゴンは今も経済の中心地であり、街は多くのクルマが溢れていた。また、東南アジアの国々に共通して言えることであるが、物を大事にするところがあり、自動車・電車・船舶・電気製品等、かなり古いものでも使い続けていた。

しかし、道路事情や電力、通信などインフラやライフラインの整備は遅れており、道路は常に大渋滞であった。かつて、「法治国家ではなく放置国家」であり、警察は取締りをおこなわず、木陰で昼寝をしている状況が、5年前まで見受けられたようであった。しかし、解放から3年、いま、ものすごいスピードで先進国の影響が入り込みつつある。

そして、労働組合の結成、労働者福祉環境の整備などは、まだまだ手つかずの状態であり、戦後間もない頃の日本を想像させられた。

このような状況の中、国外追放からの帰国後、日も浅い「ミャンマー労働組合連盟(FTUM)」のマウン・マウン書記長をはじめとするスタッフの皆さんとの意見交換には、労働者福祉の充実に向けた並々ならぬ熱い思いを感じた。

私たちは先進国として、アジアの仲間の労働事情の充実・整備に「チカラ」を尽さねばならないと強く感じた。大変有意義な視察に送り出していただいたことに感謝を申し上げるのと同時に、5年、10年先に再度訪れ、その変化を見てみたいと考えている。

情報労連埼玉県協議会 田口文男
運輸労連埼玉県連合会 牧野智一



ITUCヤンゴン事務所で意見交換



FTUM工場の前で



スー・チャーさん宅の前

集おう! 語ろう! 力を合わせよう!

2014年度 青年委員会 ユースラー 参加者募集のお知らせ

連合埼玉青年委員会では、全構成組織青年層との交流をつうじ、各構成組織間の交流と青年相互の仲間意識を高め青年活動の活性化を主眼に「ユースラー」を毎年開催しています。本年においても、宿泊形式をとり、ゆっくりと語り合える場を提供していきます。ぜひ、ご参加ください。女性の積極的なご参加もお待ちしております。

日時	2014年8月30日(土)13:30~31日(日)12:00
場所	越生町 ゆうパークおごせ
内容	1日目 ①参加者自己紹介(顔合わせ) ②青年委員会活動報告(心あわせ) ③基調講演「~若手組合役員への期待~ 埼玉版KNT」 講師:小林直哉 連合埼玉会長 ④Gr対抗戦「組合用語かるた選手権」(力あわせ) ⑤夕食懇親会「グループ対抗お好み焼き選手権」 2日目 ⑥イクメン講座 講師:吉田大樹氏(NPO法人ファザーリング・ジャパン)
対象者	連合埼玉加盟組合員で概ね40歳までの男女、ならびに概ね40歳までの連合埼玉推薦議員
参加募集人員	50名(先着順、青年委員会幹事、事務局含む)
参加費	7,000円
※詳しくは、連合埼玉発信文書149号をご覧ください。	

~女性が労働組合で輝くために~

女性のためのSTEP UPセミナー(中級編)参加者募集のお知らせ

労働組合の意思決定の場への女性の参画は、働く環境の改善と男女平等の運動を進めるうえで重要な課題です。女性に、いま以上に組合へ積極的な参加と参画を進めるため、「女性役員の育成」を目的とした研修等の継続的な取り組みを進めることとします。

日時	2014年9月12日(金)10:00~ 13日(土)12:00
場所	あけぼのビル501
内容	1日目①「女性がイキイキと働ける社会に!」 講師:油井文江氏 埼玉県女性起業支援ルーム「COCOオフィス」女性アドバイザー マーケティングコンサルタント・中小企業診断士 ②整体師によるミニ講座 あなたのカラダゆがみありませんか? カラダの不調は日々の姿勢・クセ・運動不足から起こります。 ③「自分も相手も尊重するコミュニケーション講座」 講師:牛島のり子氏 アサーティブジャパン事務局長・専属講師 2日目④「働く女性の労働法講座」 講師:明治大学法科大学院 野川忍氏
対象者	①女性活動や青年女性活動に関わっている ②職場委員の経験がある。もしくは職場委員である。 ③新任の執行委員
規模	50名
※詳しくは、連合埼玉発信文書166号をご覧ください。	

「働くことを軸とする安心社会」の実現に向けて

2014年度 組合役員教育プログラム(基礎講座) 第2次開催のお知らせ

組合役員としての基礎を学ぶため年間2回の開催を予定しており、第2次研修会を下記の通り開催をいたします。このプログラムは「働くことを軸とする安心社会」の実現に向け①学習による人材育成、②交流による人材育成、この2つの観点から人材育成を進めていくこととしています。ご参加いただけますよう、構成組織ならびに加盟組合のご協力をお願いいたします。

基礎講座	①労働組合の意義と機能 ②組合役員の立場と役割
日時	2014年9月 6日(土)10:00~16:30
会場	あけぼのビル501会議室
基礎講座	③組合員のためのコミュニケーション力開発 ④会議の進め方(職場討議・集会の進め方)
日時	2014年9月17日(水)10:00~16:30
会場	あけぼのビル501会議室
基礎講座	⑤これだけは知っておきたい労働法(初級) ⑥健全な労使関係と働き方のルール(中級)
日時	2014年9月27日(土)10:00~16:30
会場	あけぼのビル501会議室
基礎講座	⑦労働組合の社会的役割 ⑧埼玉県の労働福祉運動の役割
日時	2014年10月1日(水)10:00~16:30
会場	あけぼのビル501会議室
参加人数	各講座とも50名
※詳しくは、連合埼玉発信文書162号をご覧ください。	

育児休業を取得して、パパ・ママ2人で子育てをしてみませんか？ ～拡充された育児休業給付が子育てを応援します～

育児休業は、男女ともに仕事と子育てを両立しながら働き続けることを支援する制度です。

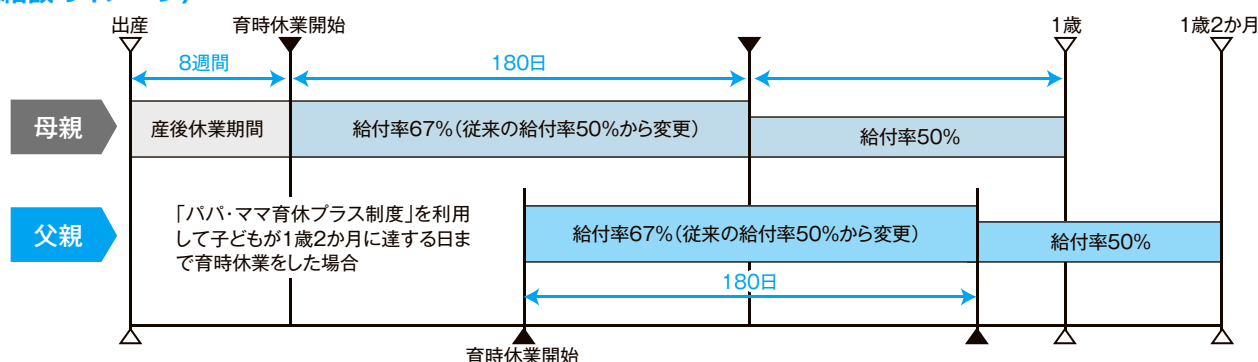
平成26年4月1日以降に開始する育児休業から、育児休業を開始してから180日目までは、休業開始前の賃金の67%（これまでは全期間について50%）を支給し、181日目からは、従来通り休業開始前の賃金50%を支給します。

（支給額には上限額、下限額などがあります。）

母親とともに父親も育児休業する場合は1歳2ヶ月までの1年間休業ができ、育児休業給付は父母それぞれについて180日まで給付率67%が適用されます。

育児休業給付金等の詳細については、公共職業安定所（ハローワーク）におたずねいただくか、厚生労働省ホームページ（<http://www.mhlw.go.jp>）をご覧ください。

〈支給額のイメージ〉



現在予定される8月の日程表です

8月	行事等	
	連合埼玉・事務局	地協・産別・労福協・福祉事業団体・県・上部・外部団体
1日	金	平成26年度第4回埼玉地方最低賃金審議会(13:30～・埼玉労働局)
2日	土	埼玉県電力総連「第34回定時大会」(東京電力株式会社支社)
3日	日	
4日	月	平和行動in広島(～6日) 平成26年度第5回埼玉地方最低賃金審議会(9:30～・埼玉労働局)
5日	火	第9回四役・執行委員会(10:00～・13:00～・ときわ会館) 本庄・児玉郡市地域協議会幹事会(18:30～・本庄市内)
6日	水	
7日	木	
8日	金	平和行動in長崎(～10日)
9日	土	ネット21「山の学校inときわ」(10:00～・ときわ町)
10日	日	ネット21「山の学校inときわ」(10:00～・ときわ町)
11日	月	
12日	火	
13日	水	
14日	木	
15日	金	
16日	土	
17日	日	
18日	月	
19日	火	
20日	水	第3回ライフサポートステーション運営委員会(10:00～・連合埼玉会議室) 平成26年度埼玉地方最低賃金審議会異議審(9:30～・埼玉労働局)
21日	木	
22日	金	
23日	土	組合役員教育プログラム®(13:30～・あけほのビル501)
24日	日	
25日	月	議員会議第4回幹事会(19:00～・連合埼玉会議)
26日	火	
27日	水	組合役員教育プログラム®(13:30～・あけほのビル501)
28日	木	関東ブロック第24回海外交流視察団渡航説明会(15:00～・連合東京)
29日	金	
30日	土	①青年委員会ユースラリー(13:00～ 31日・ゆうパークおごせ) ②組合役員教育プログラム®(13:30～・あけほのビル501)
31日	日	

あけぼのビル

事務局長 佐藤 道明

◆国民の選択

昨年の参議院選挙から一年が経った。一昨年12月の総選挙で衆議院の3分の2を越す議席を有する巨大な与党が誕生し、昨年7月の参議院選挙でも公明党とあわせて過半数を大きく超える議席を獲得した現政権は、特定秘密保護法や集団的自衛権、労働者保護ルールの改悪など国民無視の政治に明け暮れている。

7月1日政府は、①集団的自衛権の行使を容認する武力行使の「新3要件」、②武力攻撃に至らない侵害への対処(いわゆるグレーゾーン問題)、③PKOを含む集団安全保障を柱とする「新しい安全保障法制整備のための基本方針」を閣議決定した。憲法および国の基本政策にかかわる重要課題であるにもかかわらず、丁寧な国民的合意形成の努力を欠き、この国の安全保障のあり方の全体像を示さないまま、与党内の協議によって性急に閣議決定されたことは、民主主義に対する暴挙であり、極めて遺憾である。

7月1日を前後して、国会を1万人の人が包囲し、民衆の怒りの声をあげていた映像を皆さんもご覧になったと思う。政治に対し声をあげない日本人が、結集し行動を起こしたことは評価するが、私がこの映像を見て思ったことは、怒りの声をあげている1万人の人々の中には、安倍政権誕生のために自民党に票を投じた人たちが少なからずいたはずであり、連合の組合員も同様である。事が起きてから行動するのではなく、事が起こらぬよう正しい選択をすべきと痛感した。

◆第18回統一地方選挙の意義

7月8日に開催した第8回執行委員会で、来年4月に施行される第18回統一地方選挙対応方針(その1)を確認した。第18回統一地方選挙は、「働くことを軸とする安心社会」をはじめとする連合の政策実現に向け、「働く者・生活者」の立場にたった地域の政治勢力拡大をはかる重要な闘いである。

国政における一強多弱の現状、民主党の支持率低迷など、極めて厳しい情勢にあるが、地域での政治基盤を強化し、連合埼玉・構成組織・地域協議会の

連携強化による取り組みを進めなければならない。

地域における政治勢力の拡大は、第一義として各地方自治体において連合の掲げる政策の実現をめざすことであるが、加えて国民の暮らしの向上や安全の確保に重大な影響をおよぼす国政に対し、地域住民の声を届けることにつなげることが重要である。

一方で、各地域における政策実現と政治基盤の強化は、国政における一強多弱の現状からの大いなる反転攻勢の転換点となりうることも認識しなければならない。

従って、統一地方選挙後に想定される次期国政選挙への展望も踏まえつつ、第18回統一地方選挙の取り組みにおいては、組合員の政治参画意識の継続的な向上や、とりわけ多くの政策を共有する民主党との連携強化をはかりつつ、「働くことを軸とする安心社会」の実現に向け、地域事情を踏まえた政治基盤の強化を視野に入れた推薦候補者擁立に取り組むとともに、推薦候補者への支持拡大を徹底していかなければならない。

◆政治活動の必要性

そもそも、なぜ労働組合が政治に参画しなければならないのか。労働組合の活動は、賃金や労働条件だけではなく、社会保障や税などの様々な政策制度にも目を向けなければ組合員の暮らしを守ることにはできない。人口減少が始まっている日本社会において、過去のような経済成長は容易なことではなく、持続可能な社会システムへと見直す必要性に迫られている。

私たちの暮らしにかかわることは労使協議だけでは不十分であり、多くのことが政治の場で決められている。だからこそ私たちは政治の場にも働く者の意見を代表してくれる議員を送り、国や地域の課題を解決していくことが、私たちの暮らしや社会を良くすることとなる。

現在、連合の組織人員は約674万人。一昨年の衆議院選挙の小選挙区の総得票数は約6000万票であり、674万人という数字はその11%にあたる。「投票に行っても政治は変わらない」と棄権する人がいるが、連合に集う組合員の一票一票がまともれば、さらにその家族や友人・知人に支援の輪が広がれば、決して小さな力ではなく、政治を変える力になっていく。たとえ政治に無関心であったとしても、私たちが生きていくうえで政治とは無関係でいることはできない。

2014.7.22